フリースクール全国ネットワークニュース

FREE SCHOOL NETWORK NEWS LETTER　　2015.3.20　No.52

今号の目次

Ｐ１　第７回 JDEC（日本フリースクール大会）　開催報告
Ｐ２　第７回 JDEC（日本フリースクール大会）　開催報告
Ｐ３　フリースクールフェスティバル２０１４開催報告
Ｐ４　これからの子育て・教育を考えるフォーラム 参加報告
Ｐ５　フリースクール・不登校政策をめぐって
Ｐ６　事務局より　／　入会のご案内

第７回 日本フリースクール大会 開催報告

2015 年 1 月 10 日から 12 日まで、東京、代々木のオリンピックセンターにて、第 7 回 JDEC（日本フリースクール大会）、およびフリースクールスタッフ養成・研修講座を連続で開催しました。全国からフリースクール等の実践者、運営者、現役メンバー、卒業生、保護者、研究者など 147 名が参集、テレビ局一社、新聞四社が取材に来るなど、例年になく注目度の高い大会となりました。

1 月 10 日は「今、チャンスを活かす～国のフリースクール支援～」と題するパネルディスカッションからスタート、西野博之さん（NPO 法人フリースペースたまりば）、吉田敦彦さん（大阪府立大学／日本シュタイナー学校協会）、中村国生さん（NPO 法人東京シューレ／多様な学び保障法を実現する会）に加え、文部科学省初等中等局に新たに設置された「フリースクール等担当」の亀田徹さんもゲストに迎え、私たちフリースクール等の運営者、関係者が求める支援のあり方や、子どもの学ぶ権利を保障するための仕組みづくりのために何が必要かを議論しました（司会：奥地圭子 フリースクール全国ネットワーク）。議論の中では、今後、国はフリースクール等支援の方策を検討するための有識者会議を開催、今年 6 月には中間報告、来年度末には最終まとめをつくる予定とのこと、そして、そのために全国の保護者、子ども、フリースクール等のスタッフや運営者とも意見交換を行いながら、家庭を中心に過ごすことも含めた現状の把握もしていくことが話されました。

フリースクール等の多様な学びの側からは、これからの支援策への期待とともに、フリースクール等の独自性・多様性を損なわないよう、それぞれの自主性を尊重した支援を行うこと、フリースクール等に通う子どもだけでなく、家庭を中心として過ごす子どもも学ぶ権利を保障される仕組みをつくること、外国籍の子どもなどの学ぶ権利も保障すること、フリースクール等が成り立ちにくい地方での、学校と協働して行う子どもの支援の仕組みなどの必要性も語られました、他にも、会場から公立学校の教員がフリースクールでの実習を行うなどの取り組みも今後さらに広げ、学校そのものも子どもたちがもっと安心して学べる場になるように変えていくための提案もされるなど、会場も交えた活発な議論がなされました。

第７回 日本フリースクール大会 開催報告

パネルディスカッションの次には「フリースクールの魅力と悩み」と題した実践報告を行いました。地域も、設立の経緯もそれぞれ違うフリースクールが登壇しましたが「子ども中心の学び」を支援し、そこで魅力的な若者が育っていくという点が魅力であるということは共通事項でした。

その後も、少人数に分かれてのテーマ別分科会（テーマは「子ども中心の学びのつくり方」「フリースクールで育つ個性（進路）」「親・保護者との関わり」「子どもの貧困」「どう受け入れるか、不登校・発達障害」「フリースクールのつくり方と運営」等々）で各地の加盟フリースクールの実践をもとに意見交換を交わし、フリースクールで育った子ども・若者のシンポジウム「フリースクールで育つとは？～当事者の今・これからに学ぶ～」では、フリースクールでどのような事を学んだか、どのような事がフリースクールの魅力だったか、学校との違い、スタッフ（教員）との関わり、そして卒業生には社会に出た後、フリースクールで学んだことがどのような事が役立っているかなどを聞き、フリースクールが大切に育てていくべき文化・理念を考えました。

続けて開催した「フリースクールスタッフ養成・研修講座」には、若手のフリースクールスタッフや学生を中心に約 80 名が参集、入門編の「フリースクールとは何か」フリースクールの現役スタッフによるシンポジウム「フリースクールという選択」等のプログラムではフリースクールの活動の実態、通ってくる子どもたちとの具体的な関わり方について学んだ他、現役スタッフを対象としたプログラムでは「子どものミーティングを盛り上げるには」「就労に向けたサポート」「暴力が出てしまう子どもへの対応」など、具体的な課題について、それぞれのフリースクールでどのように対応をしているのか、どのようなことを念頭に置いて子どもと付き合うべきか、などを話し合いました。講座終了後の「フリースクール実習」にも 8 名がエントリー、それぞれの地域で、実際にフリースクールの中に入り実習を行う予定となりました。

「今、チャンスを活かす～国のフリースクール支援～」の中では、超党派フリースクール等議員連盟に所属する、河村建夫議員（衆議院・議連会長）、馳浩議員（衆議院・議連幹事長）、林久美子議員（参議院・議連事務局長）、髙木義明議員（衆議院）、小西洋之議員（参議院）、高橋克法議員（参議院）神山佐市議員（衆議院）からメッセージもいただき、司会から紹介、掲示もさせていただきました。

※メッセージは、フリネットホームページからもご覧いただけます
http://freeschoolnetwork.jp/p-proposal/664

フリースクールフェスティバル 2014

～こんなに楽しいのは全部妖怪（みんな）のせいだ～

2014 年 11 月 22 日、東京シューレ葛飾中学校にて「フリースクールフェスティバル 2014～こんなに楽しいのは全部妖怪（みんな）のせいだ～」を開催しました。

「フリースクールフェスティバル」は毎年恒例のフリースクールの合同文化祭、今年の実行委員会は東京シューレ、東京シューレ葛飾中学校、フリースクールりんごの木、フリースクールネモの 4 団体から 30 人が参集、タイトルの「こんなに楽しいのは全部妖怪（みんな）のせいだ」という言葉には、フリースクールフェスティバルや、みんなと過ごす日常が、（妖怪のように）多様な個性が集まり、それが楽しいんだという風になってほしいとの願いが込められています。

実行委員会では、最初にそれぞれやりたいことを出し合い、ファッションショー、お化け屋敷、もちつき、おみこし、櫓をたてたい、盆踊り、○×ゲーム、布小物作りなどなど、様々なアイディアが出ました。次に、出されたアイディアの中から議論の末、ライブハウス、ステージ発表、梶原徹也さんのリズムワークショップ、ポニー乗馬体験、しっぽとり大会、わなげ・射的、肝だめし、房総まつり寿司の実演、妖怪コスプレパレード、スタンプラリー、イラスト交流、映像作品上映会、遊戯王大会、フリースクールごとの活動紹介、子どもシンポジウムなどのプログラムを実施しました。他にも全国の加盟フリースクールに呼び掛け、タイトルにちなんだオリジナルの「妖怪フラッグ」をつくってもらい、会場内に展示しました。

また、今年ならではの企画として、不登校・フリースクールに関する相談コーナー、子どもそうだんコーナー（相談の受け手が子ども）も実施、子どもそうだんコーナーには、不登校の子を持つ保護者や、フリースクールに通っている子どもが来場、不登校の子どもの気持ちや、睡眠のリズム、退屈な時間の過ごし方などについての相談が寄せられました。また「どうなる！？国のフリースクール支援」と題したフォーラムも開催、文科省の担当者に来ていただいての意見交換には、90 人ほどの人が集いました。

フェスティバル当日には、北は北海道、南は九州（長崎、熊本）まで、約 550 名が参加、参加フリースクール数も、出展・出演団体数が 7 団体、参加者としての来場が 17 団体、ポスター展示等は 30 団体となり、例年以上の盛り上がりとなりました。

フリースクールフェスティバル 2014
～こんなに楽しいのは全部妖怪（みんな）のせいだ～

日　　時：2014 年 11 月 22 日（土）
会　　場：東京シューレ葛飾中学校（東京都葛飾区）
参加総数：約 550 名
助　　成：独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

これからの子育て・教育を考えるフォーラム

～第２回オルタナティブな学び 実践研究交流集会 in 関西～

2015 年 2 月 7,8 日、大阪府立大学「I-site なんば」にてこれからの子育て・教育を考えるフォーラムが開催されました。主催は同フォーラム実行委員会、多様な教育を推進するネットワーク（おるたネット）、多様な学び保障法を実現する会を中心に、フリースクール、シュタイナー学校、サドベリー学校、ホームエデュケーションの支援団体などが協働しての開催でした。

フォーラムの１日目は児童文学者・翻訳家の清水眞砂子さんの基調講演「子育ても教育も色々あっていい」で始まり、その後「清水眞砂子さんと語ろう」「多様な学びパネルトーク＆座談会」の二つのグループに分かれ、それぞれのテーマで語り合いました。清水眞砂子さんの講演は、清水さんご自身の子ども時代のエピソードなどをもとにしながら、子どもの育ち方は、それぞれの個性に合った多様なものがあったほうが良いということ、家庭や学校だけでなく、社会の中に多様な場があり、それぞれの関わり方で子どもを育てていくことが良いのではないかということなどが語られ、特に「みんなで仲良く、明るく」という育ち方ではなくても、それぞれにやりたいことが認められれば、みんな豊かな育ち方ができるのだというメッセージが印象的でした。

２日目となる２月８日は、朝から３つのテーマに分かれての分科会。分科会 A は午前、午後にそれぞれ「学習権の保障と支援の仕組み」「『フリースクール等』支援へ、私たちからの提言」のふたつのテーマについての検討がおこなわれ、憲法で認められている「子どもが教育を受ける権利」を保障するため、どのような形での公的支援が望ましいのか、学習の形式にこだわるのではなく、子どもひとりひとりの成長をサポートする仕組みであってほしい事などが話されました。分科会 B、多様な学びの場の実践者や研究者による「オルタナティブな学び研究発表」、分科会 C「つながる、広がる！実践交流」では、それぞれの場の活動の発表や、オルタナティブな学びにどのような意義があるのか、またこれからどのような形で学びの支援を充実させていくべきかの研究発表や、「居場所」の大切さについても大いに語られ、多様な場が存在し、子どもたちは自分に合う、自分のやりたいことができるやり方を選ぶことができる社会こそが豊かな社会だと、あらためて感じる時間となりました。

全体会を兼ねたエンディングでは、フリースクール等の場に通わず家庭を中心として育つ子どもたち、ブラジル学校に通う子どもなど海外にルーツを持つ子どもたちにも、平等に支援が行きとどくようになる必要があることも話されました。

なお、参加人数は２日間で延べ 416 名とのことです。このような機会を用意してくださった実行委員会の皆様に、この場をかりてあらためて御礼申し上げます。

フリースクール・不登校政策をめぐって

２０１５年１・２月、フリースクールに関する有識者会議が２回、不登校に関する有識者会議が２回開催されました。また、フリースクール等議員連盟も、８ヶ月ぶりに開催されました。その３種類の会議の報告です。

★フリースクール等に関する検討会議

メンバーは 14 名、うちフリースクール関係者は４名、大学、教育委員会、教育支援センター（適応指導教室）の関係者、児童精神科医、臨床心理士、教育ジャーナリスト等で構成されています。第 1 回は、1 月 30 日開催、座長に永井順國氏（政策学院大学）を選出。会議の公開制を決め、スタートしました。会議の論点については、文科省内で整理したものが「主な論点例」として 7 点示され、スケジュールとして 6 月中間報告、年度内最終まとめの予定で進めることとなりました。

1 回目の内容は、フリースクール 4 団体の活動発表、質疑応答、委員の意見交換、調査項目の確認の順に進み、印象としては、発達障がいや子どもの貧困に関心が高かったです。奥地は「フリースクール等」の等にいろいろ入ることの確認と、子ども・保護者等の不登校当事者の話を聞いてほしい、支援はもちろんだが、多様な学び、育ちが阻害されないようにしたい、フリースクール活用の場合の二重籍問題や不登校の子どもの自己否定感を解消するには、学校以外の学びも対等に選べるしくみがいる、行政の管理・干渉ではなく関係機関の自主的な相互認証の機関をつくって質の担保をするのが良い、等の意見を述べました。第 2 回は、2 月 27 日に開催され、福岡、京都、長野、仙台の教育委員会から、適応指導教室や学校の取り組み発表と、スクールソーシャルワーカーの取り組みと 5 例の事例発表があり、論点例に関する自由討論となりました。第 1 回に出された意見が「論点別」に並べられていて、意見の少ないところやさらに足したいところを求められ、皆さんとても活発で、時間不足となり、財政支援や制度上の位置づけについては、次回になりました。私は特に「子ども一人ひとりの学ぶ権利の保障が土台」を強調しました。

★不登校に関する調査研究協力者会議

2 月 10 日に第 1 回、2 月 23 日に第 2 回が開かれ、フリースクール関係者は入っておらず、教育行政、学校、相談活動、精神科医、大学の先生などで事例発表と討議がなされています。概ね学校復帰を目標とする取り組みが多く、学校外の学びも認めようという新しい方向性との整合性はどうなるのか気になるところでした。「このままの方向では大臣の期待に応えられない」との意見がある委員から出ましたが、ごく少数意見のようで、今後の展開を注視してきたいです。

★超党派フリースクール等議員連盟

市民側の要望から、昨年 6 月に結成された上記議連の第 2 回会合が、2 月 18 日、参議院議員会館で開かれ、12 月選挙で返り咲いた議員も再入会くださっており、議員側約 40 名、市民側約 25 名ほどの参加で、途中文科大臣の参加もありました。議連幹事長の「（仮）普通教育支援法」を議員立法で考えたい。法制局も呼び週 1～月 1 の検討会を開く予定」の発言に驚きました。今後動きを注目していきたいし、市民側の意見を積極的に伝えていきたいと思います。

（奥地圭子）

事務局より

2014 年度の活動がそろそろ終わりを迎えます、今年度は、まなび場ほしのたね、NPO 法人 with 優、NPO 法人文化学習協同ネットワーク、NPO 法人 TEDIC の 4 団体が正会員として、支援会員も 8 団体と 5 名が入会し、合計 17 団体・人が仲間に加わってくれました。正会員だけをみても、立ち上げ間もない場もあれば、40 年もの歴史のある場もあり、フリースクール以外にも若者の就労支援や被災地での放課後の学習支援活動等、多彩なテーマにとりくんでいます。

フリースクール等への公的支援が検討される今、2015 年度も引き続きネットワークの拡充に注力し、みなさまの声を政府、議会に届けていきたいと思います。（松島裕之）

●フリースクール等・不登校、二つの検討会議の情報を会員向けメールマガジンにて発信中●

参考資料 フリースクール等に関する検討会議 委員（50 音順）

生田義久さん（京都市教育委員会教育長）、植山起佐子さん（CPCOM　臨床心理士コラボオフィス目黒臨床心理士）、奥地圭子（NPO 法人東京シューレ理事長・NPO 法人フリースクール全国ネットワーク代表理事）、加治佐哲也さん（兵庫教育大学学長）、金井剛さん（横浜市子ども青少年局児童相談所統括部長　中央児童相談所長　児童精神科医）、菊地敬一郎さん（仙台市適応指導センター「児遊の杜」所長）、品川裕香さん（教育ジャーナリスト）、白井智子さん（NPO 法人トイボックス代表理事・スマイルファクトリー校長）、永井順國さん（政策大学大学院客員教授）、中村潤さん（福岡教育庁理事）、西野博之さん（NPO 法人フリースペースたまりば理事長・川崎市子ども夢パーク所長・フリースペースえん代表）、宮澤和徳さん（長野県辰野町教育委員会教育長）、武藤啓司さん（NPO 法人楠の木学園理事長）、横井葉子さん（上智大学総合人間科学部社会福祉学科助教）

■フリースクール全国ネットワーク　会員募集中■

フリースクール全国ネットワークをともに創り、支援して頂ける会員を募集しています。総会での議決権を持つ正会員は、当法人の目的と活動に賛同し、ともに活動をつくってくださるフリースクール等の団体が対象。支援会員は、当法人の目的と活動に賛同し、参加・ご支援をしてくださる個人や団体が対象です。多くの皆様の力と知恵を集め、フリースクール等の活動や、そこで学び・育つ子どもたちを支えるため、ご入会をお待ちしております。

□正　会　員□

フリースクール全国ネットワークの活動をともに創っていくフリースクール等の団体

入会金 2,000 円 年会費 1 口 6,000 円（2 口以上）

□支援会員□

フリースクール全国ネットワークや各地のフリースクールの活動を応援する個人や団体

入会金なし 年会費 1 口 3,000 円

□お振込先□

[郵便局から]

普通預金　口座番号　00130 - 5 - 611018
加入者名　特定非営利活動法人
　　フリースクール全国ネットワーク

[銀行から]

ゆうちょ銀行　〇一九支店（ゼロイチキュウ）
金融機関コード：9900　店番：019
預金種別：当座　　口座番号：0611018
口座名　特定非営利活動法人
　　フリースクール全国ネットワーク

■発行・お問い合わせ先■

NPO 法人フリースクール全国ネットワーク

〒114-0021 東京都北区岸町 1-9-19 コーエイビル
TEL&FAX：03 - 5924 - 0525
（毎週平日 9：30～18：00）
E-mail：info@freeschoolnetwork.jp
URL：http://freeschoolnetwork.jp/
Twitter：https://twitter.com/#!/freeschoolnet
FB: http://www.facebook.com/freeschoolnetwork